

# 比較文化会報

Dec. 1995 No. 16

本部事務局 青森県弘前市稔町13-1  
弘前学院大学英米文学佐藤研究室  
電話 (0172) 34-5211 内線216

発行者 芳賀 馨  
編集者 楠 純 一

## 吉備地方の文化—今と昔

中国四国支部長 畠 中 康 男

第十八回大会は平成八年六月八日(土)に岡山の就実女子大学において開催されることになっております。岡山は古代吉備地方文化の栄えた地であり、現在は中国四国地方の政治・経済の中心地であります。岡山の銘菓はきびだんご。きびだんごといえば桃太郎ですね。JR岡山駅を降り立てば犬、猿、雉を従えた桃太郎の銅像がお迎え。駅前通りは桃太郎大通りで、両側には可愛い犬や猿の銅像が立ち並び、その中をメルヘンチックな市電が走っています。

岡山市から北にのびる吉備路は古代のロマンあふれる神話と伝承の宝庫です。鬼退治をした桃太郎伝説は、瀬戸の海を航行する船を襲ったり、村の婦女子を掠奪するなど悪事を働いていた温羅の一族を、大和から派遣された吉備津彦命が征伐したという伝説が原型です。古代吉備地方は鉄の産地で、製鉄技術を持った渡来人が多く住んでいたところであり、鉄をめぐる大和との争いがもとと考えられています。現在も温羅が住んでいたという鬼ノ城には3kmに及ぶ巨大な石塁が残っています。

中世六古窯の一つとして知られる備前焼は土と炎の芸術です。歴史は鎌田初期に始まり、日用雑器として広く用いられていたのが、釉薬を使わず、灰と灰との作用だけで焼きあげた素朴な味わいを、桃山時代の茶人たちが愛でてて陶芸にしたのです。

日本三大名園の一つに数えられる後楽園は、一七〇〇年に造園された美しい廻遊式庭園です。旭川の中州に造られた庭園内には、築山、池、曲水などを配し、美しくデザインされた田圃や茶畑があって、四季それぞれに色とりどりの花が咲きます。岡山城の天守閣を背後に望む後楽園の景色はすばらしい眺めです。

鳥城とも呼ばれる岡山城は、一五九七年に宇喜多秀家によって完成されました。天守閣や櫓の構造や城壁の石積みなど、戦国時代の築城の特徴を伝えるところが少なくありません。天守閣は一九四五年六月二十九日の岡山大空襲で焼失し、現在の天守閣は一九六六年に復元されたものです。

後楽園の近くには夢二郷土美術館があります。宵待草の詩や憂いをこめた女性の絵でよく知られる竹久夢二は大正時代の代表的詩人・画家として、今なお多くの人々に愛されています。館内には夢二の作品や資料が数多く展示され、大正ロマンの薫りが漂っています。

川辺に美しく立ち並ぶ白壁の土蔵や緑の柳の並木など、倉敷の美観地区は大原美術館を初め、考古館や民芸館、郷土玩具館、芸文館などの集まった芸術文化のセンターです。赤レンガの建物の美しい倉敷アイビースクエアは紡績工場跡をホテル等に再開発したものです。オルゴール館やアイビー工房などは訪れる人々の足をしばし留めます。

江戸時代には朝鮮通信使の寄港地でもあった牛窓は、今では日本のエーゲ海と呼ばれます。美しい島々の点在する海を見下ろす丘には瀟洒なホテルやペンションがたち、テニスコートやヨットハーバーなどがあって、瀬戸内海屈指のマリソリゾート地です。

岡山から少し足を伸ばすと美作三湯として名高い湯郷、湯原、奥津の温泉があります。湯けむりの漂う静かな温泉旅館で学会の旅の疲れをいやすのもよいでしょう。また瀬戸大橋を渡って四国へ足を伸ばすのはいかがでしょうか。松山の道後温泉には夏日漱石の「坊っちゃん」ゆかりの温泉や、正岡子規記念館などがあり、中国四国の旅を楽しむことができるでしょう。

岡山は日本一降雨量の少ないところで、「晴れの国おかやま」と呼ばれています。瀬戸内海で漁ったばかりの新鮮な魚や、白桃、マスカット、メロンなどの果物が豊かで、海の幸、山の幸に恵まれています。「ままかり」という小魚があります。あまりにもおいしくてご飯が足りなくなるところから、「まま」を借りにいったところから、こう呼ぶようになったそうです。

素晴らしいところでですね岡山は。第十八回大会をお楽しみに。

「おいでませ おかやまへ。」

(就実女子大学教授)

# 第十七回大会を終えて

南東北副支部長 引地 岳雄

第十七回大会は、六月十日(土)杜の部の愛称をもつ仙台で開催された。会場校は芳賀会長のおひざ元、東北学院大学泉キャンパス。設立されてから何年にもならない美しい広大なキャンパスだ。

午前十時、総会をもって大会の幕が開いた。最初に表彰式が行われ、学会誌『比較文化研究』が二八号に達するまでに二五篇の論文を投稿した南東北支部の森 一さんに会長から表彰状が手渡された。森 一さんは本学会で表彰を受ける最初の会員になった。つづいて、十時三十分、シンポジウム「比較文化論再考」がもたれ、そもそも文化とは何かなどの本質的な問題がフロアを巻き込んで熱心に議論された。

二時間とった余裕たっぷりの昼休みのうち、二時から東北学院大学田多英興教授の記念講演「まばたきの心理」があった。日頃見過ごしていることに科学の光があてられ、聞いておもしろい講演であった。

午後三時、生活文化、芸術、歴史、教育、文学、語学など、あらゆる分野にわたる研究の成果が、八室にわかれて発表された。発表総数三一はこれまでで一番多し。当初の予想を上回る盛況ぶりに担当支部の喜びは大きかった。思うに、会長自身が熱心に発表の勧誘にあたってためであり、その意気に応じてくれる多くの人がいたからである。そして、新島女子短大の学生の皆さんの参加にもお礼を言いたい。

大会を振り返って一つ残念に思うのは、

シンポジウムが記録にならないことだ。関東支部が編集する学会誌には、紙面のゆとりがあるようだから、それに収録することにしようだろうか？

## 《第十七回大会総会報告》

### 一 報告

#### 1 庶務報告

(1) A 「比較文化研究」発行について  
26号、27号及び28号を発行。  
B 主な送付先  
国立国会図書館、郵政省郵務局、  
HARVARD YENCHING LIBRARY、  
RYANA。

#### (2) 第18回大会について

A 開催校 就実女子大学  
B シンポジウムのテーマ  
「比較文化学の領域—宗教学(哲学)・文学・言語学・家政学—」  
会計報告  
別紙資料に基づき報告された。

### 二 議題

#### 1 「比較文化研究」編集について

欧文論文の場合には四百字以内で和文抄録を添えるべきという意見が出された。また、年三回の発行のうち、一回程度はイングリッシュ・ナンバーの発行が必要との意見が出された。

#### 2 第19回大会について

開催校 関西支部内。

#### (1) シンポジウムのテーマ 未定。

会費納入促進と会員名簿について何年にも渡り、会費を納めていない会員に対し、支部と相談の上、会員名簿からその名前を整理することになった。

#### 4 マクミラン社広告の件について

マクミラン社グループ世界美術大辞典日本事務所より広告掲載の依頼があり、「比較文化研究」に掲載することになった。

## 《本部事務局だより》

### 1 入会希望者へ

本学会に入会を希望する方は、本部事務局へ「入会申込書」を提出して下さい。折り返し、必要書類をお送り致します。入会申込書は本部事務局および各支部に備えてあります。

### 2 論文掲載希望者へ

学会誌『比較文化研究』は年に三回発行しております。掲載を御希望の方は左記へお問い合わせ下さい。  
(五月末日メ切)  
〒三七〇 高崎市昭和町53 新島学園  
女子短大内 日本比較文化学会関東支部  
電話 〇二七三—二六一—一五五  
(九月末日メ切)  
〒九六〇—一二 福島市光が丘一 福島県立医科大学 外国語講座内 日本比較文化学会南東北支部  
電話 〇二四五—四八—二二二  
(十二月末日メ切)  
〒六〇二 京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学文学部石黒研究室内  
日本比較文化学会関西支部  
電話 〇七五一—二五一—四〇二六

3 学会誌『比較文化会報』に近況報告、支部活動報告、研究部会報告、新刊紹介等で投稿なさる方は、左記の要領でご応募下さい。  
(1) 近況報告

縦書 十八字×七行

(2) 新刊書、編注書等の紹介  
近況報告の場合と同じ

(3) エッセイ投稿  
縦書 十八字×三十行

(4) 支部報告、研究部会報告  
縦書 十八字×六十行

投稿メ切日 毎年七月三十一日  
投稿先 〒九六〇—一二 福島市光が丘一 福島県立医科大学  
数学講座 楠 純一

## 第十八回大会案内

時 一九九六年六月八日(土)

開催校 就実女子大学

問合先 〒七〇三 岡山市西川原一丁目六一—

就実女子大学文学部 島中康男  
研究室内 島中康男  
電話 〇八六—二七二—三二八五(代)

研究発表希望者へ  
研究発表を希望する方は次の要領で投稿願います。  
(1) レジュメをワープロなどで、B5版横書一枚にまとめて下さい。その際左右の余白を二センチほど残して下さい。  
一九九六年三月三十一日必着で上記島中康男宛に書留でお送り下さい。  
シンポジウム・テーマと講師の推薦  
第18回シンポジウムのテーマは「比較文化学の領域—宗教学(哲学)・文学・言語学・家政学—」です。各支部は年内に講師一名推薦し、司会者(石黒昭博)に連絡して下さい。なお、言語の講師は関西支部から推薦する予定です。

すので御了承下さい。推薦された講師は(1)および(2)とも研究発表者の要領で三月末までにレジュメをお願いします。送り先 千六〇二 京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学文学部石黒研究室  
内石黒昭博

電話(直)〇七五二二五一四〇二六

## 《会長室だより》

会長 芳賀 馨

主として日本学術会議の連絡事務を担当する目的で設置された「会長室」が二年目を迎えた。年間十数件この種の業務を処理していることは前号でも記した。

本号では、「会報No.15」一頁に示した「比較文化学論纂(仮題)」という論集出版の件について考えたい。

「比較文化研究No.27」に、大東文化大  
学・栗原優講師の「比較文化学」の展  
望(PP.1-7)と題する示唆的論文が  
掲載されている。英語学者として大学で  
実際に「比較文化」を担当している実践  
的立場から、学問における「学」と「論」  
の差異を意識して提案した重要な発言で  
ある。一九九〇年度大学入学生から施行  
された新しい教育職員免許法で、指定科  
目として「比較文化(外国事情)」が必  
修として設定された経緯にもなっており、  
特に大学社会で論議されている。私は上  
記の事情をうけて「第十七回大会」のシ  
ンポジウムでは「比較文化論再考」を設  
定したつもりである。更に「第十八回大  
会」では「比較文化学の領域」というシ  
ンポジウム・テーマが提案されている。  
ここでは、栗原論文の副題である、「比

較文化」から「比較文化学」への内包  
する意義が偶々継承されている。これは  
現場で「比較文化(論)」を担当してい  
る教員の共通の関心事である。

私が提案する論集の出版は以上の要望  
に答えようとするものである。

比較文化学という体系に含まれるそれ  
ぞれの分野における比較論を、各分野の  
専門家が担当し、日本比較文化学会とし  
ての集積を世に問うべき時期が迫ってい  
ると認識している。仲間と共に諸々の  
「論纂」を出版した経験が「こ」でも生き  
ると私は今考えている。

## 会員新刊紹介

(著書)

島中康男・小宮山博共著『イギリスの  
文学—概説と演習—』(英宝社 一九九  
三年)

近藤哲著『漱石と会津っば・山嵐』(歴  
史春秋社 一九九五年)

芳賀馨編著『レジナルド・ローズ論纂  
—テレビドラマ、もう一つの原点—』(開  
文社 一九九五年)

芳賀馨著『放送芸術学序説』(開文社  
一九九五年)

ロバート・ビョーク著 引地岳雄訳  
『実例による医学英語論文の書き方—文  
章構成のポイント—』(メジカルビュー  
社 一九八七年)

引地岳雄著 クリス・クロウ共著『上手  
な医学英文アブストラクトの書き方(上)  
—採否をキメる英語表現のコツ—』(メ  
ジカルビュー社 一九九三年)

引地岳雄著 クリス・クロウ共著『上手  
な医学英文アブストラクトの書き方(下)  
—和文抄録を洗練された英語表現にする

コツ—』(メジカルビュー社 一九九  
四年)  
(テキスト)

芳賀馨・太田敬雄・小林俊哉共編  
Reginald Rose, Crime in the Street(『暴  
力の季節』)(開文社 一九九四年)

芳賀馨・太田敬雄・小林俊哉共編  
Reginald Rose, Twelve Angry Men(『十  
二人の怒れる男たち』)(開文社 一九九  
五年)

石黒昭博 フィリップ・ウィリアムズ  
共著 My American Trip: San Francis-  
co&Los Angeles(私のアメリカ旅行—  
シスコ、ロース—)(南雲堂 一九八八年)

石黒昭博・島中康男・川本裕未 フラ  
ンセス・カナベ共著 A Checkbook for  
Living in the USA(アメリカ生活チェ  
ックブック)(南雲堂 一九九二年)

石黒昭博・島中康男 W. Essig 斎藤  
紀代子共著 10-Minute TOEFL Prac-  
tices(十分間—TOEFL総合演習)(桐  
原書店 一九九四年)

(テキスト)  
石黒昭博・島中康男・川本裕未共著  
A Shorter Course in English Word  
Games(5分間英語ワード・ゲーム)  
(南雲堂 一九九三年)

受贈図書(一九九四年四月—一九九五  
年八月)

デイッド・リット著 A・R・リード  
編 田中絵訳『英語—音の意味』(山口  
書店 一九九五年)

『熊野学ネットワーク』構想 平成五年  
度熊野学研究センター(仮称)構想基本  
調査報告書要約版(一九九四年三月) 熊  
野学研究センター(仮称)構想実行委員  
会

『国際日本文化研究会—報告No.1—』(一九  
八八年六月) 国際日本文化研究会  
『聖泉論纂』第2号(一九九四年十月)  
聖泉短期大学学会  
『日本教科教育学会誌』第17巻第2号(一  
九九四年八月)、第3号(一九九四年十  
月)、第18巻第1号(一九九五年六月)  
日本教科教育学会  
『放送芸術学』No.3(一九八七年十月)、  
No.4(一九八八年十月)、No.6(一九九  
〇年十二月) 日本放送芸術学会

## 《支部からの報告》

生活文化研究部会報告  
台湾総を作る会

一九九五年七月十日(月)、仙台市青葉区  
エルパーク仙台に於いて、生活文化研究  
部会主催の「台湾総を作る会」が開かれ  
た。講師に張晉廷氏を迎えて有意義な午  
後を過ごしたが、詳細は「比較文化研究・  
懇話室」に掲載予定。

シェイクスピア・カンパニ公演  
本学会会員・東北学院大学教養学部下  
館和巴助教授が主宰するシェイクスピア  
・カンパニの「ロミオとジュリエット」  
公演が、八月十九日福島県天栄村のプリ  
ティッシュヒルズ初舞台を経て、九月九  
・十日仙台市青葉区のエルパーク仙台で  
遂に実現した。下館氏は比較演劇学を専  
攻し、イギリスにおけるシェイクスピア  
公演に造詣が深く、特に翻訳公演脚本づ  
くりにも、共通語と方言を併用するイギリ  
ス公演の特長を採用して、如何にもシェ  
イクスピアらしい生き生きとした言葉の  
やりとりで成功している。

「二人が死の世界に歩み出す幻想的な  
ラストシーンでは、会場は静寂に包まれ

ていた。」「朝日新聞」九・一〇」とい  
う批評のみならず、両家の若者たちが争  
う場面に、「ウェストサイド物語」のワ  
ン・カットを連想させる技法を導入した  
り序詞の朗読に合わせた恋人達の死体運  
びの場面の設定など秀れた演出効果は称  
賛に値する。来年公演予定の「真夏の夜  
の夢」も大いに期待できそうだ。(芳賀  
肇記)

関西支部活動報告  
(一九九四年度)

四・三三 The Participation Frame-  
work of Talk 西山 淳子

マーク・トウェインとアメリ  
カ史の解釈 森下 和彦  
トゥラレシートからチャーリ  
ィ・ゴードンまで

五・三三 Marlow の役割について  
Conrad の Chancel に関する考  
察 玉井 久治

女性の紹介の仕方めぐって  
—日米文化比較的考察を中心  
に— 高嶋 紀子  
オルフェウス神話をめぐるひ  
とつのヨーロッパ文化論 清水 宏

六・二五 関連性理論におけるアイロ  
ニーの取り扱いについて

草木 紀子  
英語における名詞化の真髄  
—Cognitive Grammar の観点  
から— 玉村 友愛

七・二三 アイランド人になりたかっ  
たイエツ 吉田 文美

再発見を求めて—木村理恵子  
アラブ語史料でみる十字軍兵  
士たち 梅田 輝世  
外国語学習における「L」の役  
割と限界 内村 美穂  
日英語の能格動詞の一考察 井上 朋子

九・十七

Japan throw the eyes of E.  
M. Satow Ian C. Ru xion  
十・二二 WH 素性と IP 付加—何故  
Who did leave? が言えないの  
か 石井 隆之  
Kipling と京都の桜 麻生 規子

十一・五

T・S・エリオット(の詩劇)  
と仏教 村田 辰夫  
The City in the Works of  
Stephen Crane 吉川 礼三  
藤田 淳一

英語の指示表現めぐって  
石黒 昭博  
伊藤 徳文  
ニューマンの大学教育論—こ  
んにちの意義をめぐって— 井上 博嗣

十二・十七 My Kinsman, Major  
Molineux の結末についての  
一解釈 柏原 和子  
Young Goodman Brown の物  
語を語るのは誰か 谷本千雅子

翻訳・色は匂へと PART  
B—「折々のうた」の英訳を  
めぐって— 釜池 進

一・三二 EFL Composition における効  
率的・効果的な Feed Back を  
考える 多田 昌夫  
EPPG(主辞駆動句構造文法)  
の基本理念と枠組みについて 宇田 千春

アメリカの文化とスポーツ—  
文学との関連— 樋口 秀雄  
不毛の人間関係・不毛の社会:  
The Secret Agent 考察 玉井 久始

ISG 第六四条における危険の  
移転 加藤 靖弘  
中世の修道女の生活—特に  
「窓」について— 齊藤 勇

九州支部活動報告  
(一九九四年度)

三・十八 英語と日本語における借用語  
とその語彙学習に関する効果  
ニラス ウォレン

広告コピーのレトリック—ア  
メリカの広告に見る言語表現  
の特徴について— 吉村 宗司  
ユダヤ系女性作学 Anzia  
Yezereska のたどりついた場  
所 Children of Loneliness の一  
考察 池田 豊子

南東北支部活動報告  
(一九九四年度)

三・十二 看護理論から看護とは何か  
松尾あや子  
七・十六 大学における Public Speak-  
ing の効果的指導法について 松田 憲

七・十六 肥大と瘦小の文化 森 一

十・十五 化学の法則と例外

大波 哲雄  
アメリカ推理小説の変遷と現況  
上野 龍夫  
三・十一 野球における日米文化の影響  
仲丸寿美子  
シエイクスピア劇とギリシャ  
劇における運命論の問題 佐藤 千賀

《編集後記》

まず、「比較文化研究」の編集委員か  
ら論文を投稿される方への「要望」があ  
りますので、要約して述べます。  
(一) 書き方の様式は、それぞれの分野で  
望ましい独自のものがあられると思われま  
すから、各々の論文でそれにふさわしい様  
式を定めましたら、終始一貫その様式を  
崩さないで下さい。  
(二) 投稿された後、初校校正から校了ま  
での過程で、編集委員との取り決め事項  
(例えば、校正刷返却の期限など)は厳  
守して下さい。 以上。

夏も終る頃になるとそろそろ編集に着  
手せねば、と思うようになる。紙面の割  
付を始めてみたら、半頁程の空白が生じ  
ている。予定原稿が届いてない。私が依  
頼するのを忘れていたのである。  
この夏は例年になく猛暑であったのか  
もしれない。関西支部の山内副支部長に  
原稿作成を急いでもらった。急ぎの時、  
フックスで受信できるのは有難い。  
結局、昨年と同じ時期の入稿にこぎつ  
けた。お忙しいなか御協力下さいました  
先生方、有難度うございました。

(楠 純一)